



みどりと花々に囲まれ、

子どもたちの歓声にあふれる季節へ

新緑の季節を迎え、南小の花壇でもチューリップやスイセンが暖かい日差しに下で大きく花開いています。校庭では、ストップウォッチで計時する担任の前を必死になって駆け抜ける運動着の子どもたちの姿が見えます。

吹く風も心地よい5月。19日(土)に開催される大運動会に向けての練習が始まりました。この計時は、全学年全児童の走力をチェックして、4色対抗の大運動会のチーム編成に偏りがないようにするためです。

さて、本校の教育目標「夢や目標をもち、自ら学び、心豊かで、たくましい児童を育成する」の具現化を目指して行われる運動会のねらいは以下の4点です。

- (1) 体育活動を通して、運動競技することの楽しさを味わわせる。
- (2) 児童集団の規律的な行動と、フェアな精神を理解させる。
- (3) 児童の係活動を通して、自主性・自発性を高めさせる。
- (4) 上・下学年競技を取り入れ、異年齢集団における好ましい人間関係を築かせる。

高学年児童111名は、準備や審判等8つの係のいずれかに所属し、運動会を支えています。その活動は教職員の指示を待たずに、行動することを要求されることが多々ありますが、その積み重ねで自主性・自発性が高まっています。

また、たてわり4色の活動で育まれる上級生のリーダーシップや下級生のフォロワーシップによって、思いやり、助け合い、協力の大切さを学び、それが異学年交流活動の基礎力となっていきます。運動会のねらいを達成できるように、全教職員で児童の活力を最大限に引き出していきます。

ヘルメット着用率100%をめざして

遠田警察署(二郷・大柳駐在所)、交通指導隊の方々においでいただき、春の交通安全教室が先日開催されました。低学年は、校門前から中学校前あたりまでの道路を使用正しい歩行・横断の仕方を、中・高学年は校庭の模擬道路を使用して、自転車の安全な乗り方を学びました。どの子も警察署員、指導隊の方々の話をよく聞いて、実地訓練を行っていました。

さて、宮城県警察のホームページに、自転車死亡事故の発生特徴として「ヘルメットの着用がない」とあげられています。本校でのヘルメット所持率は上がってきていますが、4月の調査で所持率は88%でした。所持率・着用率ともに100%を目指して、安全な自転車乗りを推進していきたいと思えます。ご協力をお願いします。

乗車用ヘルメット 着用努力義務の導入

児童や幼児を保護する責任のある者は、児童や幼児を自転車に乗車させるときは、自転車乗車用のヘルメットをかぶらせるように努めなければなりません。



5月の生活目標等 と行事予定

- 5月の生活目標 元気にあいさつをしましょう
- 5月の保健目標 自分の心と体をよく知ろう
- 5月の安全目標 道路の歩き方を身に付けよう
- 5月の給食目標 準備は早く、後片付けはきちんとしよう

日	曜	5月の予定	日	曜	5月の予定
1	火	お話朝会	17	木	
2	水	振替休業日（学習参観日）	18	金	
3	木	憲法記念日	19	土	運動会
4	金	みどりの日	20	日	
5	土	こどもの日	21	月	振替休業日（運動会）
6	日		22	火	
7	月	1,4年心臓病健診 6年血液検査	23	水	体力テスト
8	火	ぎょう虫検査セロファン配付	24	木	体位測定（高学年）
9	水	尿検査容器配付 眼科健診	25	金	
10	木	5年田植え 委員会活動	26	土	
11	金	3時間限（大崎教研のため）	27	日	
12	土		28	月	
13	日		29	火	集金日
14	月		30	水	体位測定（中学年）
15	火		31	木	4,5,6年内科健診 6/1と曜日交換
16	水				

お子さんの体力・運動能力を把握しましょう

5月23日（水）に体力テストを実施します。体力テストのねらいは、「児童生徒自身が自分の体力・運動能力を知り、その向上に関心を持ち、自ら体力・運動能力を向上しようとする意欲を育てることと、県内の子どもたちの体力・運動能力の状況を保護者、教員等がしっかり把握し適切な指導や支援ができるようにする」ことにあります。実施するのは以下の8種目です。

- 握力 【筋力：筋肉が力を出す能力】
- 上体起こし【筋力・筋持久力：筋肉が力を出したり、筋肉が力を出し続ける能力】
- 長座体前屈【柔軟性：体を曲げたり 伸ばしたりする能力】
- 反復横とび【俊敏性：体をすばやく 動かす能力】
- 20mシャトルラン【全身持久力：全身で 運動を続ける能力】
- 50m走【走る能力】
- 立ち幅（はば）とび【とぶ能力】
- ソフトボール投げ【投げる能力】

<上体起こし>



連休も後半に入りますが、近くの公園にお子さんと一緒に出かけて「投げる・跳ぶ・走る」運動をなさってはいかがでしょうか。低学年の女子児童は小さいボールを投げる経験が不足しており、投げ方すらおぼつかなくなったりします。学校でも事前に指導はしますが、連休中に親子でキャッチボールなどしていただけでも大変ありがたいです。上体起こしのイラストも付けておきました。無理をなさらない程度に、お子さんの体力向上にお付き合いください。